

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-130144

⑤ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 昭和62年(1987)6月12日

B 23 Q 3/08

A-8207-3C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

④ 発明の名称 間欠、回転板のエア吸引装置

② 特 願 昭60-267948

② 出 願 昭60(1985)11月28日

⑫ 発 明 者 中 井 光 男 静岡市緑が丘町7の16

⑪ 出 願 人 中 井 光 男 静岡市緑が丘町7の16

明 細 書

1. 発明の名称

間欠、回転板のエア吸引装置

2. 特許請求の範囲

空気吸引機(12)と空気パイプ(13)とパッキン(11)にて
軸固定具(10)と空気穴(2)を有する軸を連結し
上方に回転板(1)を取付け、回転板(1)上に矢印
(9)(9')の運動をする止軸(8)(8')と止具(7)(7')と空
気止穴(6)(6')と空気室(5)(5')と空気穴(3)(4)
を有するフェーゲル(3)(4)を設置し連結パイプ(2'')に
て連結し空気を矢印(14)の方向に吸引し矢印(14)
に示す方向に回転板(1)を回転させA位置のフ
ェーゲル(3)をB位置へB位置のフェーゲル(4)をA位置
へ移動させて停止せしめ任意の数の分割フェーゲル
(16)の如く取付けても使用出来る様にした、間欠、

回転板のエア吸引装置。

3. 発明の詳細な説明

この発明は間欠、回転板のエア吸引装置に

係るものである。

この発明を図面に説明すると図中(1)は回転板
(2)は軸、(2')は空気穴、(2'')は連結パイプ、(4)は空
気穴(3)(4)は空気穴、(5)(5')は空気室、(6)(6')
は空気止穴、(7)(7')は止具、(8)(8')は止軸、(9)(9')
は止軸(8)(8')の運動方向を示す矢印、(10)は固定
具、(11)はパッキン、(12)は空気吸引機、(13)は空
気パイプ、(14)は空気の移動方向を示す矢印、(15)
は回転板(1)の回転方向を示す矢印、(16)は任
意の数の分割フェーゲル、A、Bはフェーゲル(3)(4)の
位置を示すのである。

本発明に係る間欠、回転板のエア吸引装
置は上記の様子に構成されているから回転板(1)
の下方に空気吸引機(12)と軸(2)をパッキン
(11)にて空気を防止した軸固定具(10)と空
気パイプ(13)にて連結し回転板(1)の上方に矢印
(9)(9')に示す方向に上下運動する止具(7)(7')を
有する止軸(8)(8')をフェーゲル(3)(4)内の空気止穴

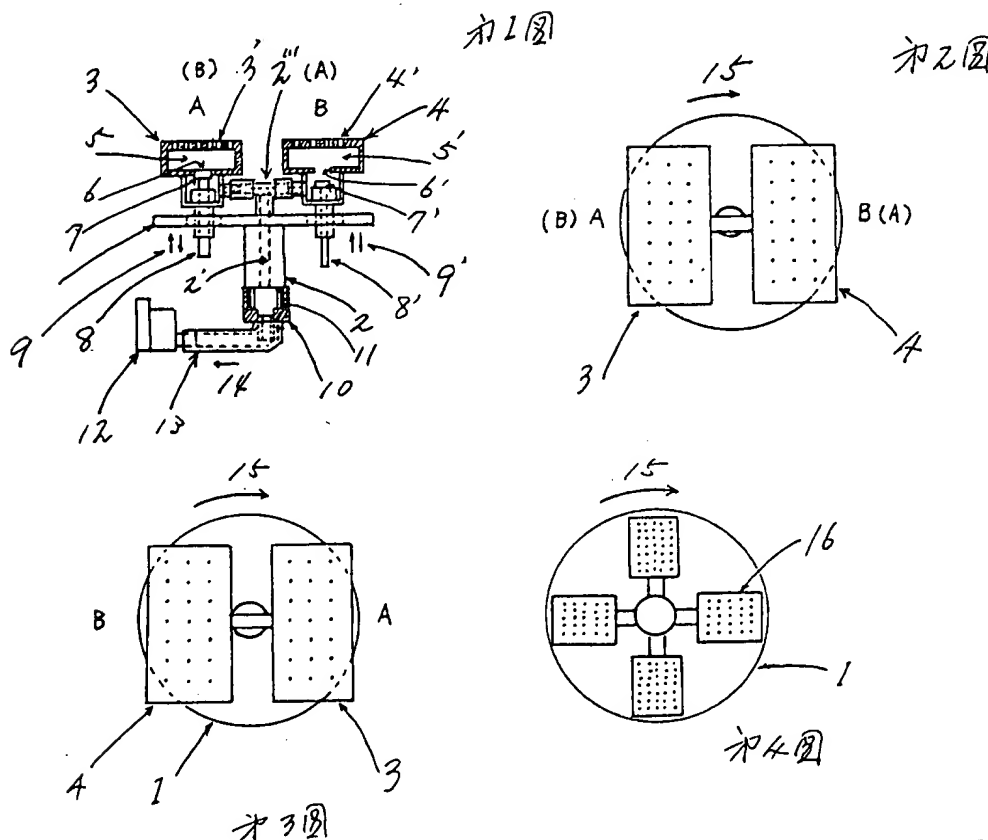
(6)(6)に合う様に設置し、テール(3)(4)に空気穴(3)(4)を設け、連動パイプ(2'')に2テール(3)(4)と空気穴(2)とを連結し、空気吸引機(12)の運動により空気を空気穴(3)(4)より吸引し、空気室(5)(5')内に入ると、A位置に2テール(3)が停止している時は、止具(7)(7')で空気止穴(6)をふさぎ、空気の流通を止め、一方のA位置にあるテール(4)内にある止具(7')を軸(8)により下方に移動させて、空気止穴(6)を開き、空気を連結パイプ(2'')と空気穴(2)と空気パイプ(3)により矢印(14)に示す本様に、空気吸引機(12)へ吸引される本様に、且、回転板(1)を軸(8)と共に矢印(15)の方向に回転させ、A位置にあるテール(3)をB位置へ移動、停止させ、B位置のテール(4)をA位置へ移動させ、止具(7)の運動により、空気止穴(6)を空気止穴(6)と同じ様に、空気止穴(6)と止具(7)を結合させて、空気の流通を止める様にしたのである。

空気は常に空気吸引機(12)により一方向に吸引されているので、テール(3)(4)の内停止しているテールは、吸引を止め、移動中は常に両テール(3)(4)とも吸引が有効である間、第4図に示す様に任意の数の分割テール(16)を取り付けることも出来る。従来の内、回転板又は回転中に空気の吸引が本来的に出来たか、止具(7)(7')の作用により、吸引と停止の切替が出来、当カ、この物の吸着と取りはがしが簡単に出来、且、構造が簡単な為、安価に製作出来、且、構造が簡単な為、安価に製作出来る等の実用的効果を發揮することがある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は回転板(1)に各部品を取付た側面図、第2図はテール(3)(4)の位置を示す平面図、第3図はテール(3)(4)の移動位置を示す平面図、第4図は分割テールを取付た平面図である。

特許出願人 中井 光男



BEST AVAILABLE COPY